資料1

麻しん・風しんの発生動向の把握及び評価について

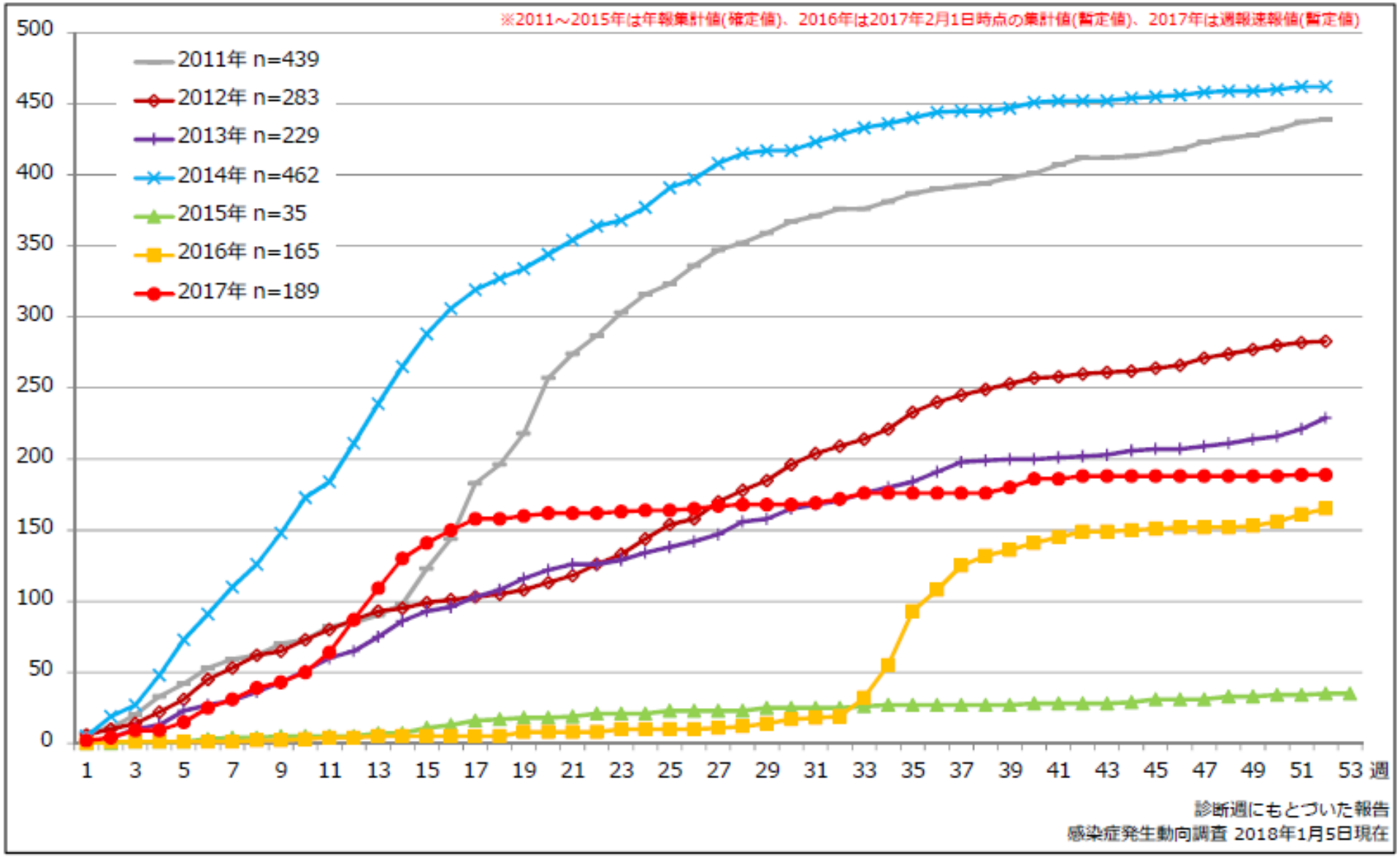
平成30年3月23日

青森県健康福祉部保健衛生課

麻しんの全国累積報告数（2011～2017年）

1. 麻しん累積報告数の推移　2011～2017年 (第1～52週)

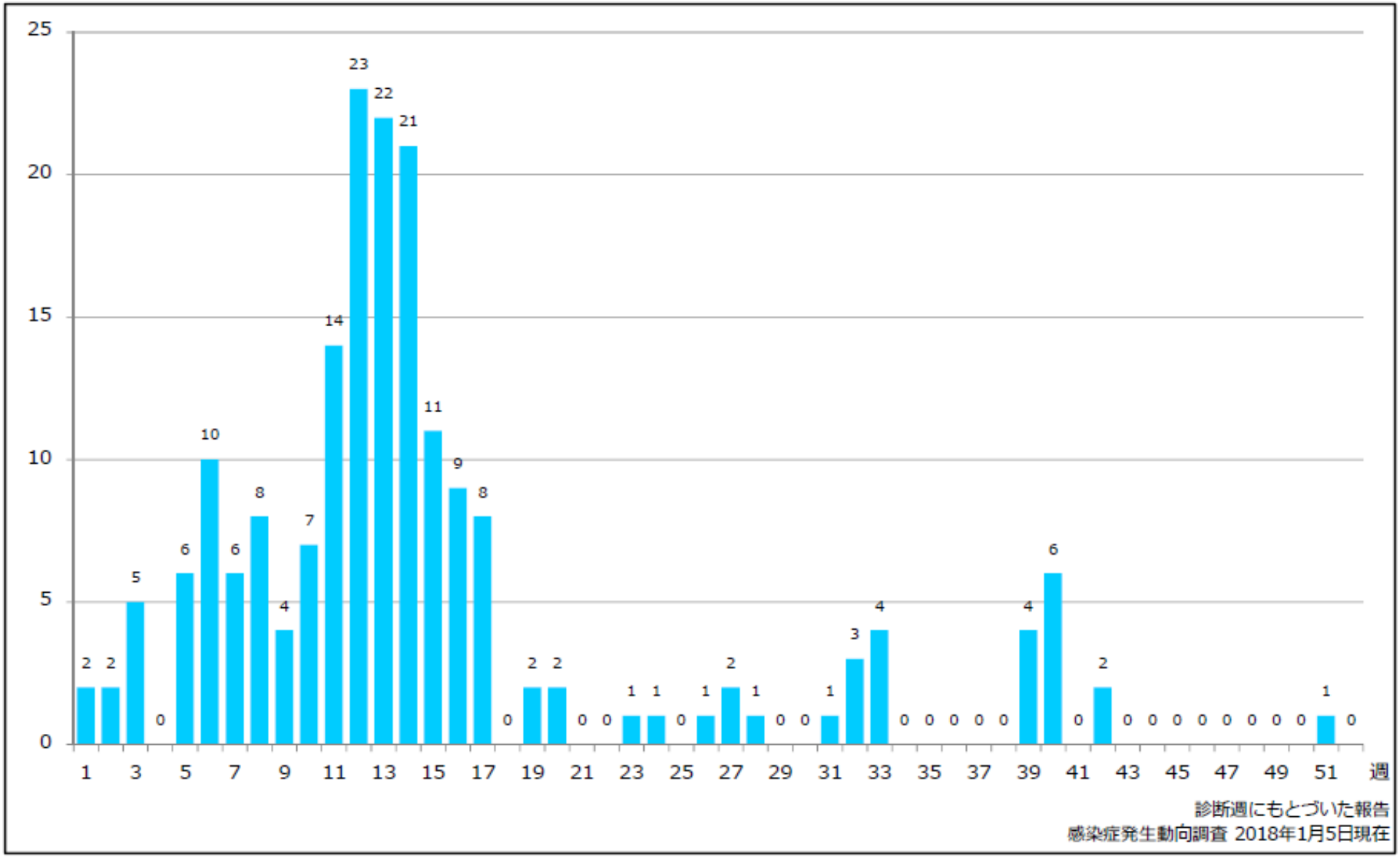
Cumulative measles cases by week, 2011-2017 (week 1-52) (based on diagnosed week as of January 5, 2018)



麻しんの全国週別報告数（2017年　189例）

2. 週別麻しん報告数　2017年 第1～52週 (n=189)

Weekly measles cases, week 1-52, 2017 (based on diagnosed week as of January 5, 2018)

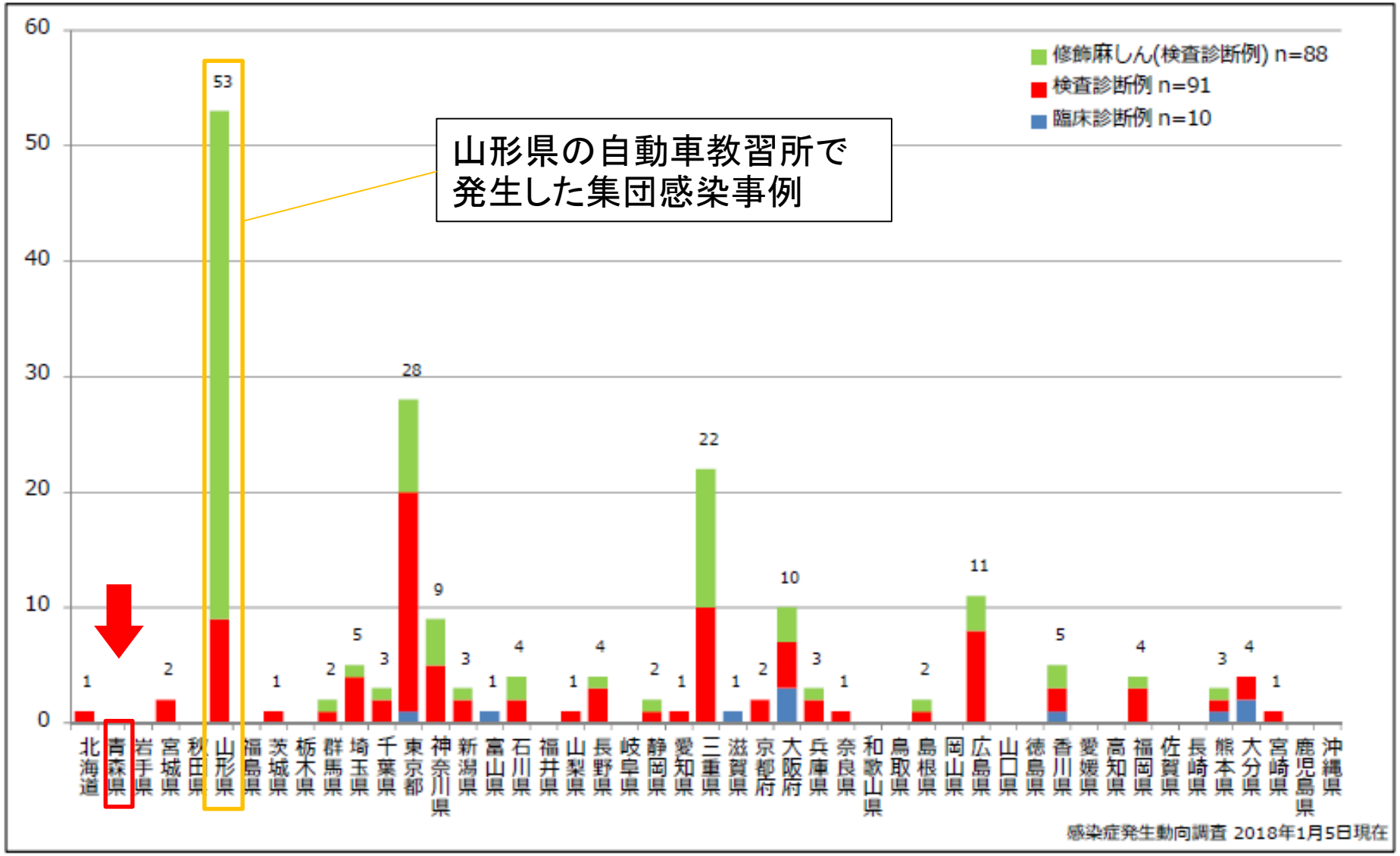


都道府県別病型別麻しん累積報告数（2017年　189例）

4. 都道府県別病型別麻しん累積報告数　2017年 第1～52週 (n=189)

Cumulative measles cases by prefecture and methods of diagnosis, week 1-52, 2017 (as of January 5, 2018)

Clinically diagnosed　Laboratory diagnosed　Modified measles, Laboratory diagnosed



山形県で発生した麻しん集団感染事例

1　探知・調査（山形県）

平成29年3月8日に山形県の医療機関から山形県の自動車教習所に通っている20歳代男性を麻しんと診断した旨の届出を山形県内の保健所が受理し、調査を実施したところ、麻しんの集団感染が確認された。

2　調査結果（山形県）

・初発患者はバリ島から帰国し、山形県で発症（山形県の自動車教習所の合宿免許参加のため山形県に来県）
・最終的な麻しんの患者は60名（山形県内53名、山形県外7名）
　※1　年代別・男女別の患者数は右表のとおり
　※2　感染者は、3月15日から4月中旬頃まで確認され、感染者59名の内訳は、

自動車教習所関係	14名
初発患者宿泊施設関係	10名
二次感染者の同僚・家族等	17名
患者受診医療関係者	2名
患者受診医療機関受診者	2名
不明（公表されていない）等	14名

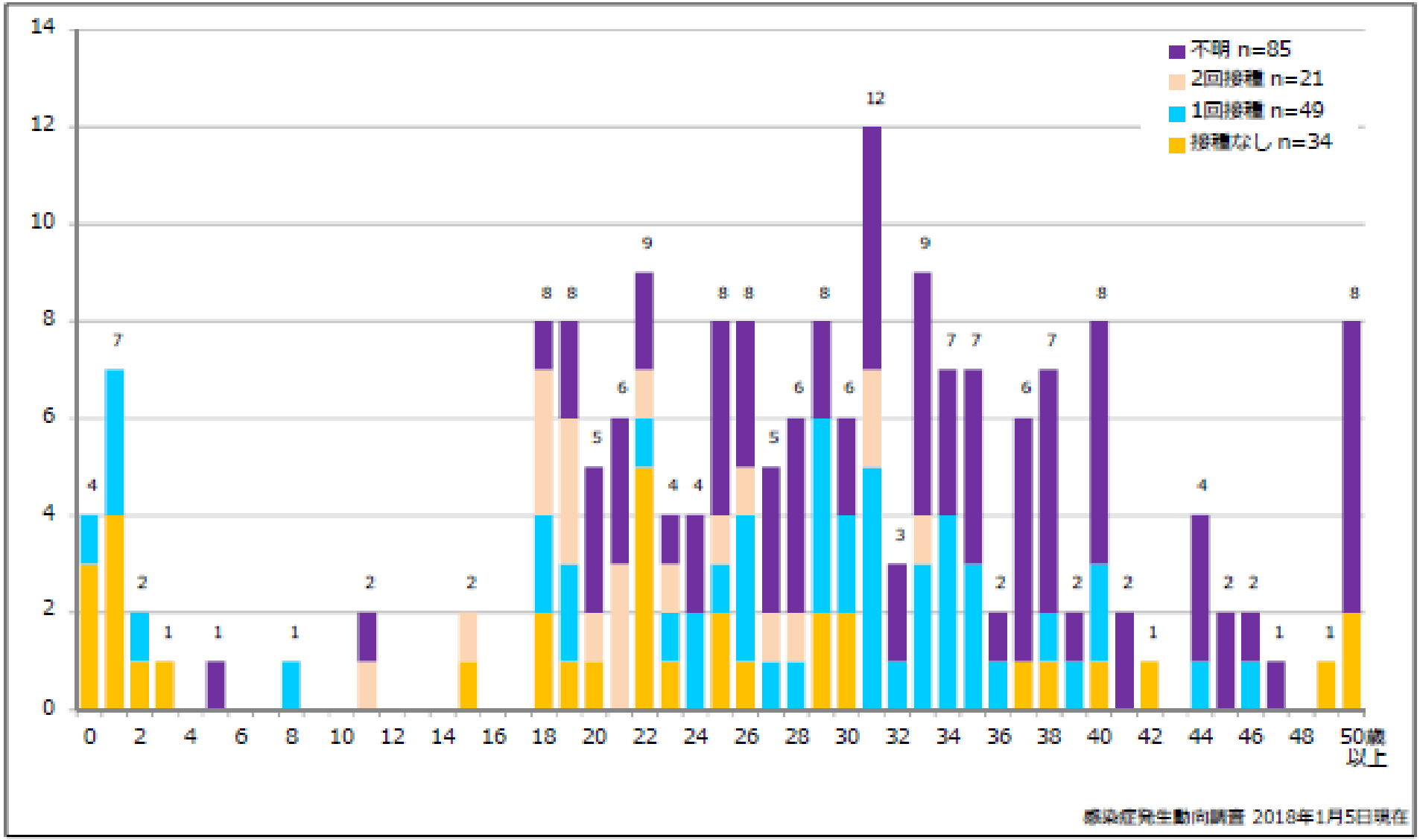
年代	男	女	合計
乳児	1名	0名	1名
10代	8名	1名	9名
20代	12名	7名	19名
30代	16名	4名	20名
40代	6名	2名	8名
50代	0名	2名	2名
60代	1名	0名	1名
合計	44名	16名	60名

年齢群別接種歴別麻しん累積報告数（2017年　189例）

6. 年齢群別接種歴別麻しん累積報告数　2017年 第1～52週 (n=189)

Cumulative measles cases by age and vaccinated status, week 1-52, 2017 (as of January 5, 2018)

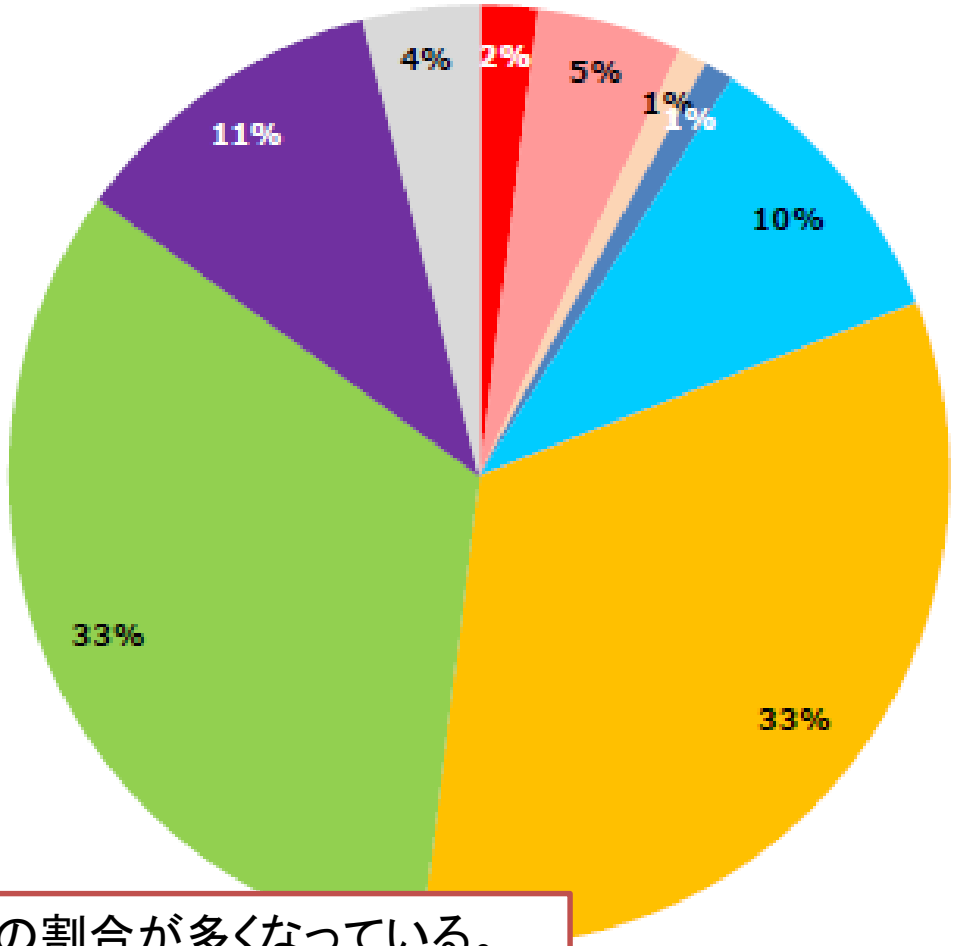
None　MCV1　MCV2　Unknown



年齢群別麻しん累積報告数割合（2017年　189例）

7. 年齢群別麻しん累積報告数割合　2017年 第1～52週 (n=189)

Percentage of cumulative measles cases by age group, week 1-52, 2017 (as of January 5, 2018)



20～29歳、30～39歳の割合が多くなっている。

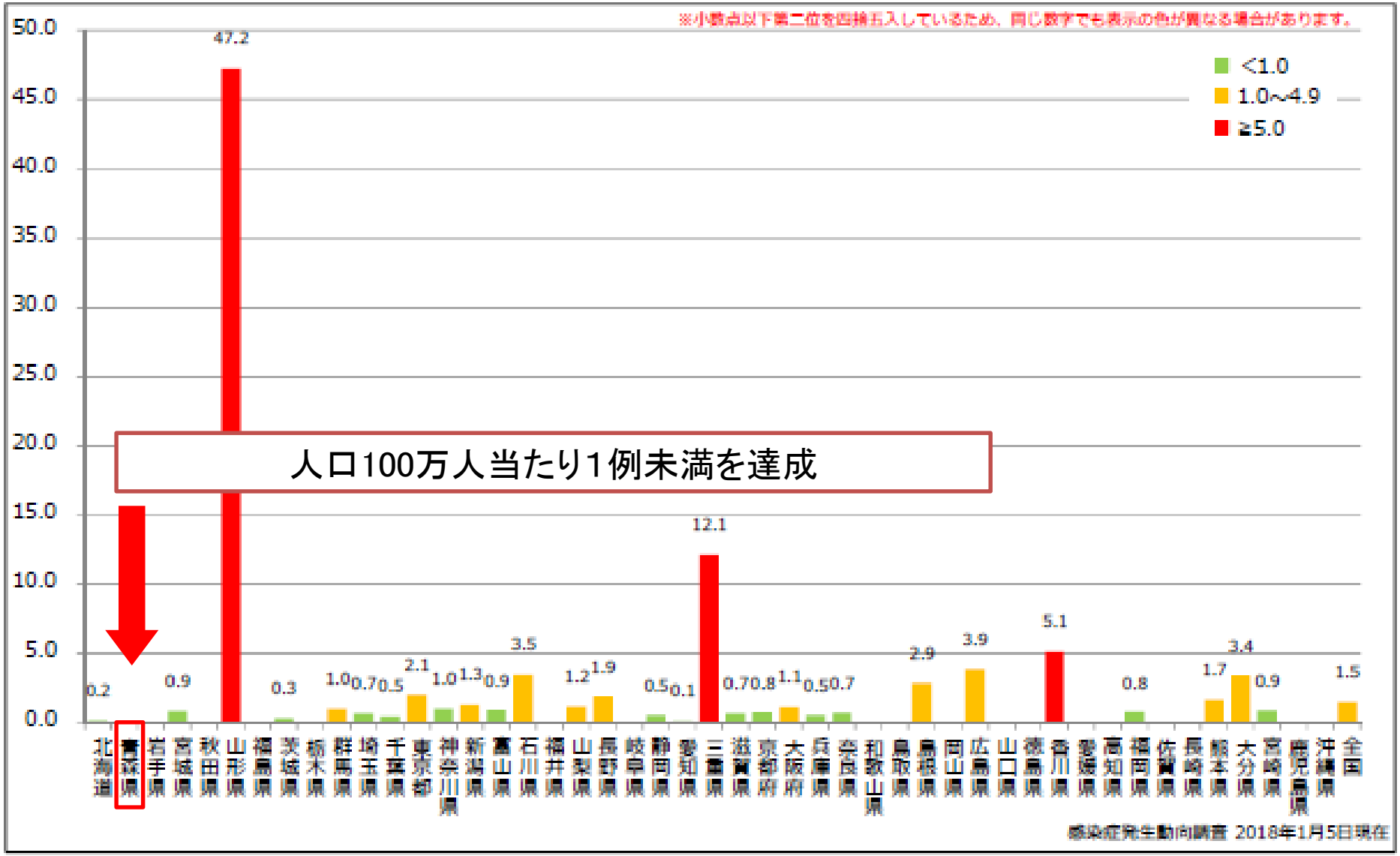
0歳　1～4歳　5～9歳　10～14歳　15～19歳　20～29歳　30～39歳　40～49歳　50歳以上

感染症発生動向調査 2018年1月5日現在

麻しんの都道府県別人口百万対報告数（2017年　189例）

9. 都道府県別人口百万人あたり麻しん報告数　2017年 第1～52週 (n=189)

Reported measles cases per 1 million population by prefecture, week 1-52, 2017 (as of January 5, 2018)



青森県の麻しん疑い事例PCR検査結果（2017年　2例）

No	検査月	年齢	性別	ワクチン接種歴	麻しんPCR			麻しんIgM数値	管轄保健所
					全血	咽頭拭い液	尿		
1	3月	48歳	女	無（罹患歴有）	（−）	（−）	（−）		八戸市保健所
2	6月	36歳	女	1回	（−）	（−）	（−）		弘前保健所

注）届出のために必要な要件

1　麻しん（検査診断例）
届出に必要な臨床症状の3つすべてを満たし、かつ、届出に必要な病原体診断のいずれかを満たすもの。

2　麻しん（臨床診断例）
届出に必要な臨床症状の3つすべてを満たすもの。

3　修飾麻しん（検査診断例）
届出に必要な臨床症状の1つ以上を満たし、かつ、届出に必要な病原体診断のいずれかを満たすもの。

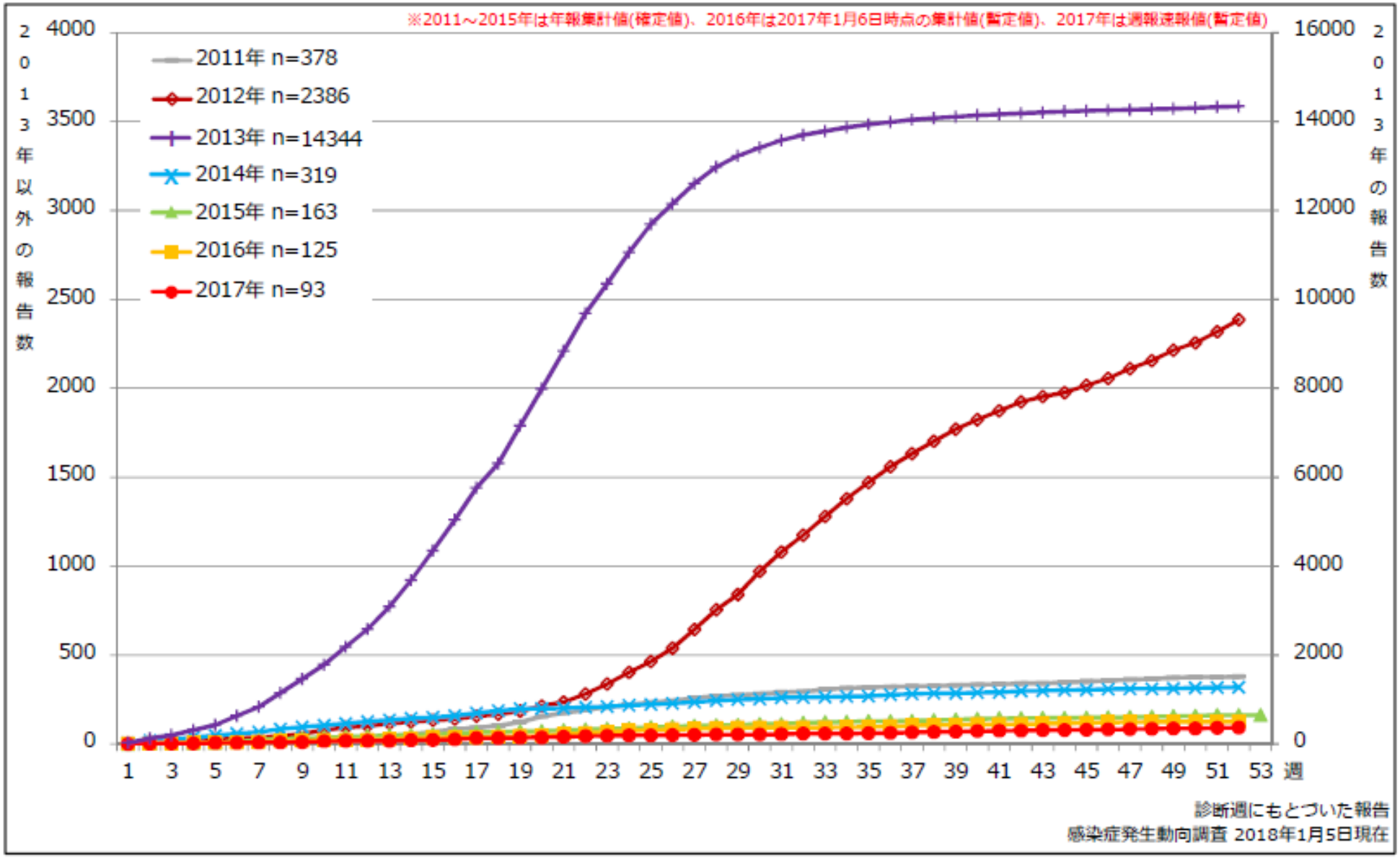
〇届出に必要な臨床症状
- 麻しんに特徴的な発疹
- 発熱
- 咳嗽、鼻汁、結膜充血などのカタル症状

〇届出に必要な病原体診断
- 分離・同定による病原体の検出：咽頭拭い液、血液、髄液、尿
- 病原体の遺伝子の検出：咽頭拭い液、血液、髄液、尿
- 抗体の検出（IgM抗体の検出、ペア血清での抗体陽転又は抗体価の有意の上昇）：血清

風しんの全国累積報告数（2011～2017年）

1. 風しん累積報告数の推移　2011～2017年 (第1～52週)

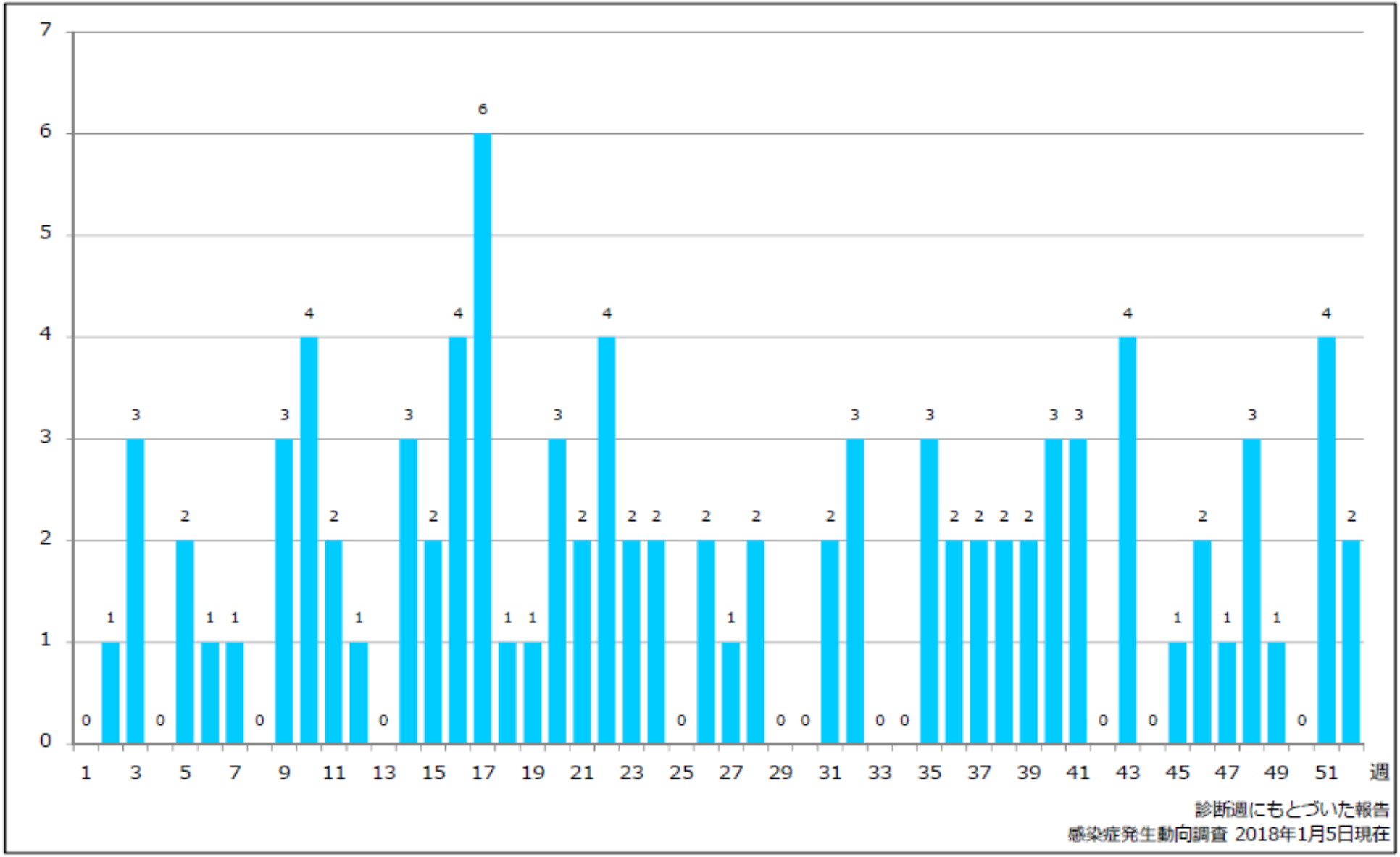
Cumulative rubella cases by week, 2011-2017 (week 1-52)（based on diagnosed week as of January 5, 2018)



風しんの全国週別報告数（2017年　93例）

2. 週別風しん報告数　2017年 第1～52週 (n=93)

Weekly rubella cases, week 1-52, 2017 (based on diagnosed week as of January 5, 2018)

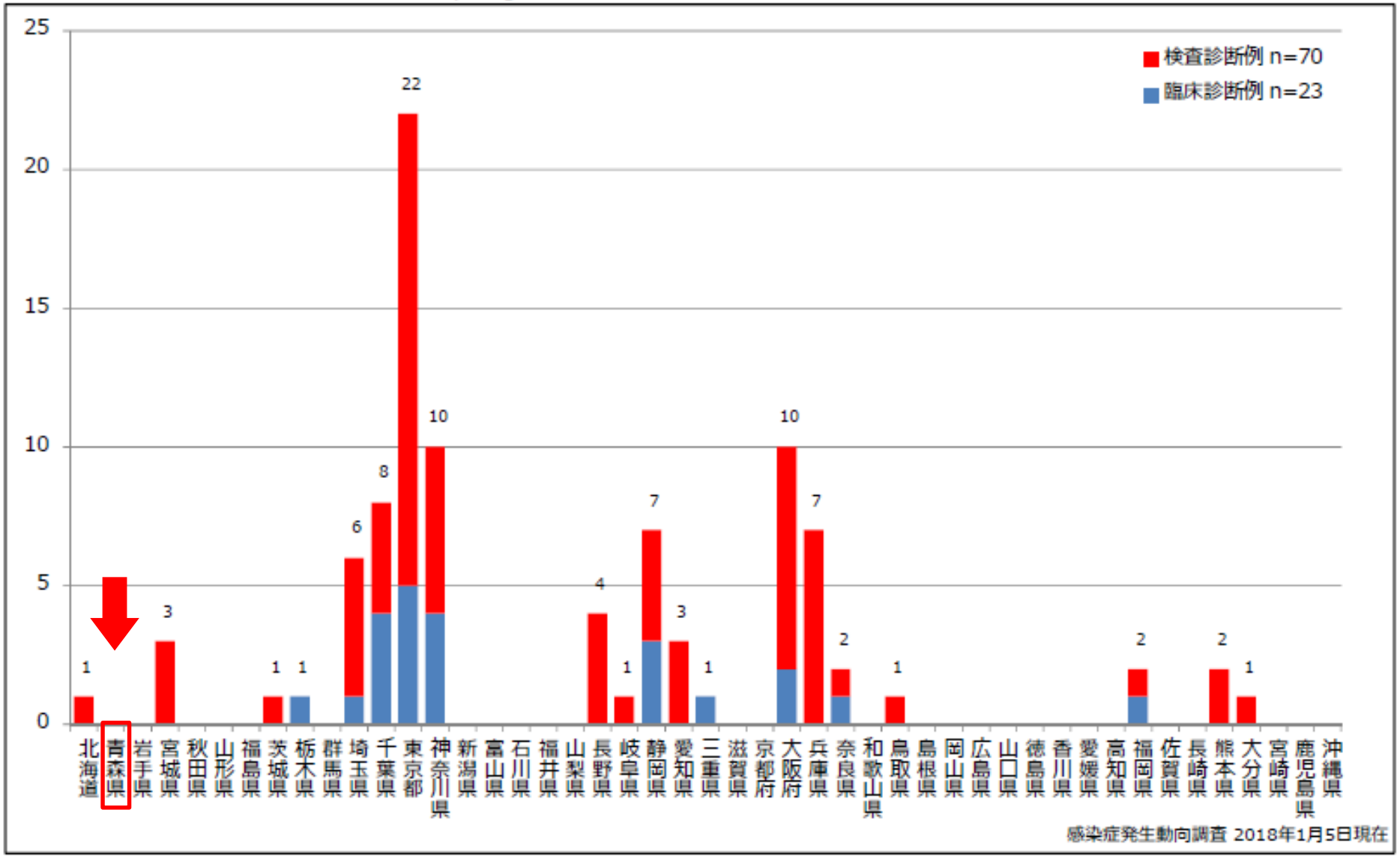


風しんの都道府県別病型別累積報告数（2017年　93例）

4. 都道府県別病型別風しん累積報告数　2017年 第1～52週 (n=93)

Cumulative rubella cases by prefecture and methods of diagnosis, week 1-52, 2017 (as of January 5, 2018)

Clinically diagnosed　Laboratory diagnosed

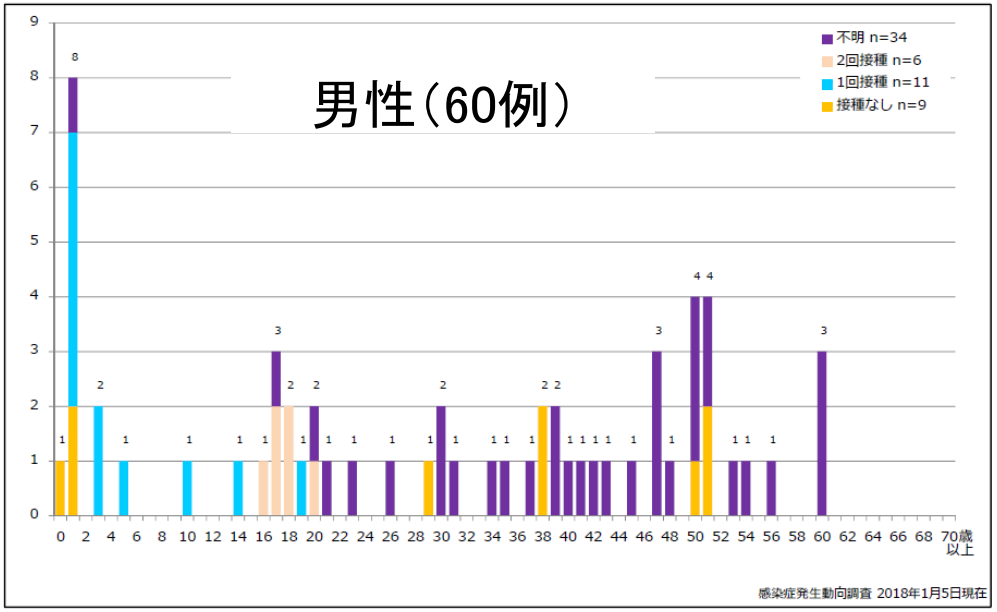


風しんの年齢群別接種歴別報告数（2017年　93例）

5-1. 年齢群別接種歴別風しん累積報告数（男性）2017年 第1～52週（n=60）

Cumulative rubella cases (male) by age and vaccinated status, week 1-52, 2017 (as of January 5, 2018)

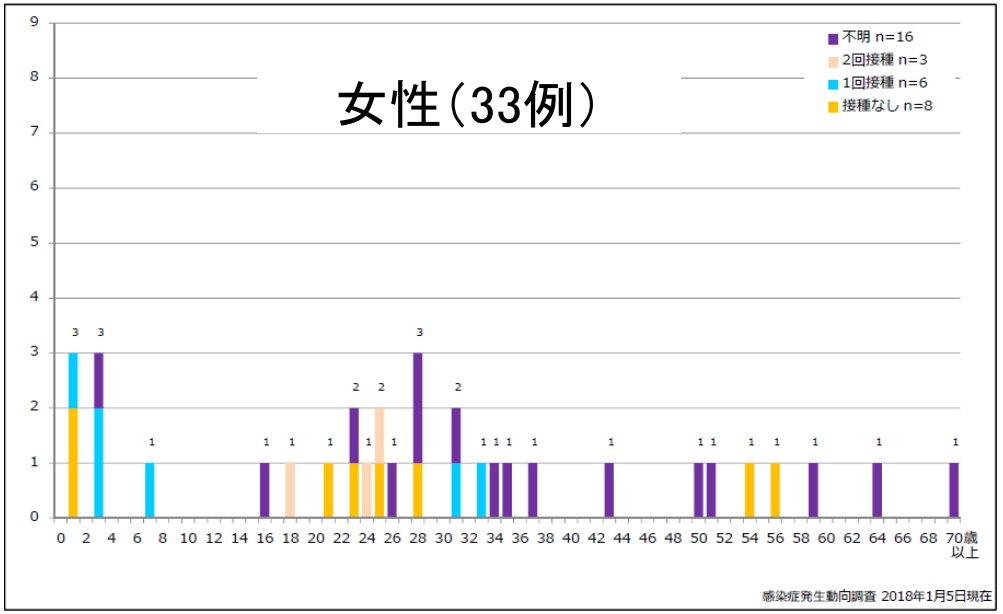
None　RCV1　RCV2　Unknown



5-2. 年齢群別接種歴別風しん累積報告数（女性）2017年 第1～52週（n=33）

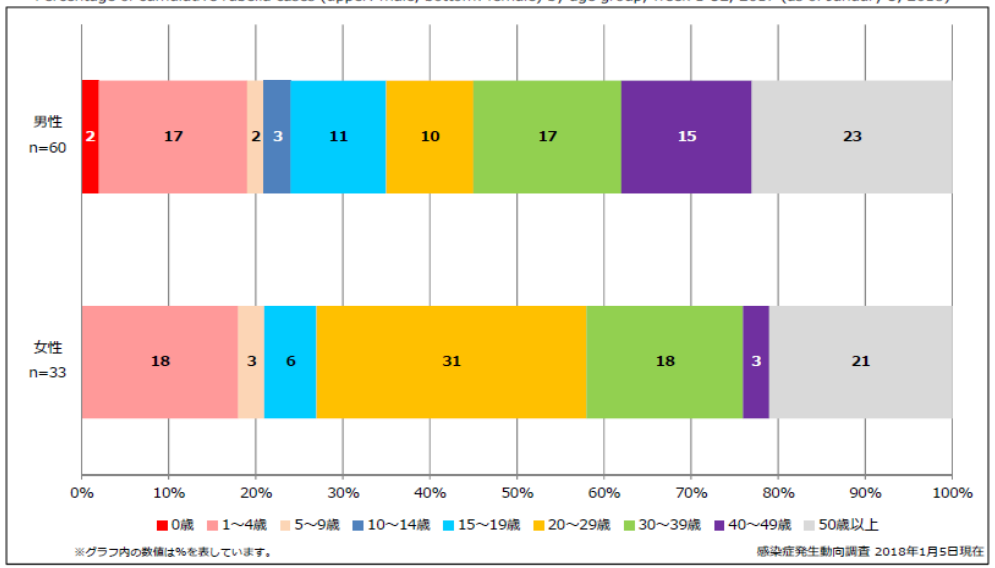
Cumulative rubella cases (female) by age and vaccinated status, week 1-52, 2017 (as of January 5, 2018)

None　RCV1　RCV2　Unknown



6. 年齢群別風しん累積報告数割合（男女別）2017年 第1～52週（n=93）

Percentage of cumulative rubella cases (upper: male, bottom: female) by age group, week 1-52, 2017 (as of January 5, 2018)



・男性では、幅広い世代で発生している。

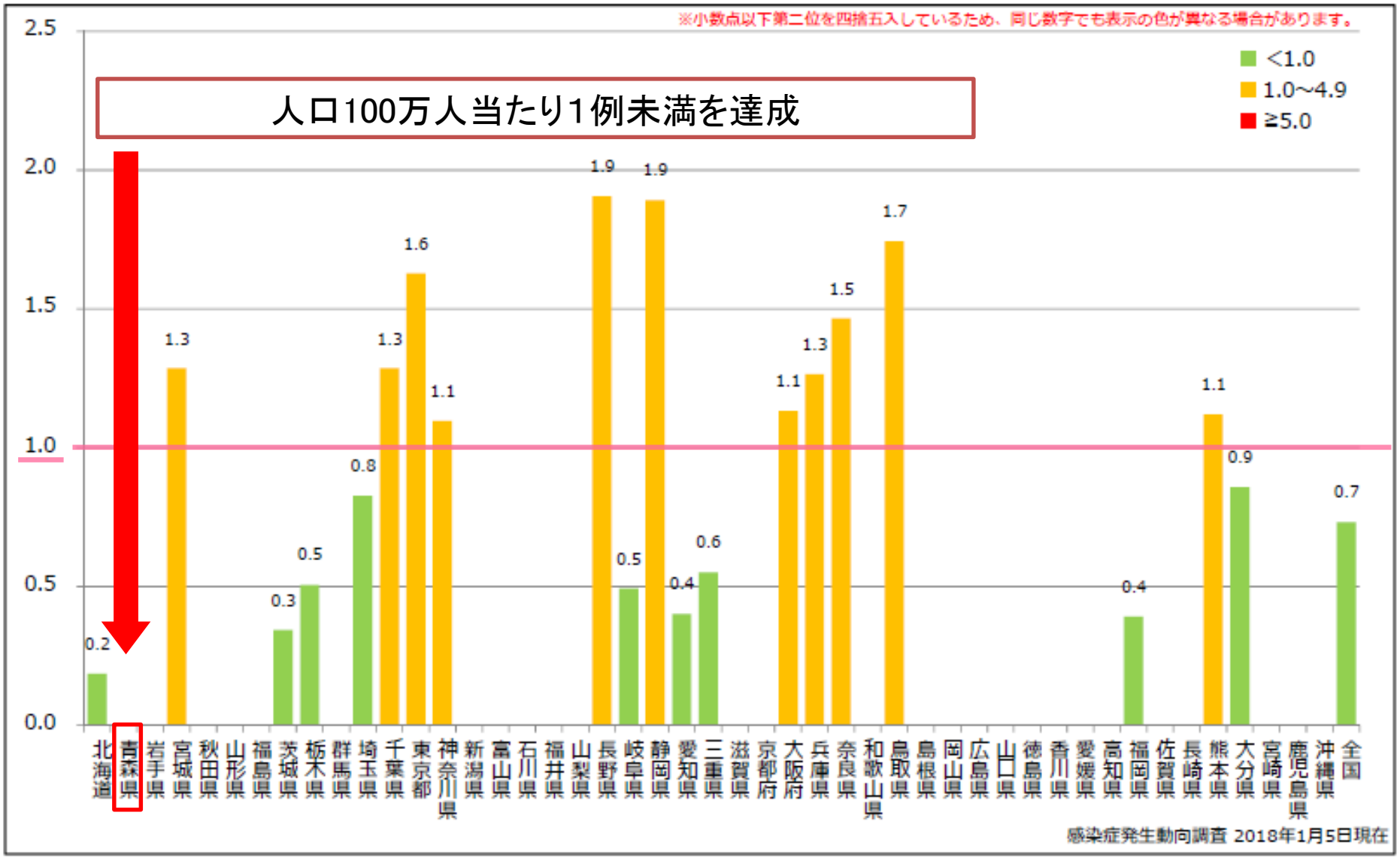
・女性では、20～29歳、30～39歳の割合が多くなっている。

（感染症発生動向調査 2018年1月5日現在）

風しんの都道府県別人口百万対報告数（2017年）

8. 都道府県別人口百万人あたり風しん報告数　2017年 第1～52週 (n=93)

Reported rubella cases per 1 million population by prefecture, week 1-52, 2017 (as of January 5, 2018)



先天性風しん症候群（CRS）の報告

◆先天性風しん症候群とは
　妊娠20週頃までの女性が感染すると、胎児が感染し、難聴（耳が聞こえにくい）、生まれつきの心臓病、白内障など眼の症状をもった赤ちゃんが生まれることがある。

＜全国における先天性風しん症候群報告数の推移＞

2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
1	4	32	9	0	0	0

＜青森県における先天性風しん症候群報告数の推移＞

2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
0	0	0	0	0	0	0

青森県の風しんPCR検査結果（2017年　0例）

2017年は、青森県においてPCR検査を実施した風しん疑い事例はありませんでした。

注）1　（−）：陰性　（±）：判定保留　（+）：陽性

注）2　風しんIgM抗体検査キット（デンカ生研(株)）による判定基準 → 陽性：IgM>1.20　陰性：IgM<0.80
判定保留：0.80≦IgM≦1.20

注）3　検査診断例：届出に必要な臨床症状の1つ以上を満たし、かつ、次の病原体診断のいずれかを満たすもの
・分離・同定による病原体の検出：咽頭拭い液、血液、髄液、尿
・検体から直接のPCR法による病原体の遺伝子の検出：咽頭拭い液、血液、髄液、尿
・抗体の検出（IgM抗体の検出、ペア血清での抗体陽転又は抗体価の有意の上昇）：血清
臨床診断例：全身性の小紅斑や紅色丘疹、発熱、リンパ節腫脹の3つすべてを満たすもの

風しんIgM抗体が陽性であっても、PCR検査や疫学調査等の結果を踏まえ、総合的に判断する

青森県の麻しん・風しん発生状況 （2011～2017年）

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
麻しん	0	0	0	0	0	0	0
風しん	0	2	8	0	0	0	0

麻しんは2011年以降、風しんは2014年以降発生していない。

風しんの届出の変更について

平成30年１月１日から 風しんの届出が変わりました。

風しんによる被害をなくすために、平成32年度までの風しんの排除を目指しています。

主な改正ポイント

1 改正前　医師が診断後※、**7日以内に届け出る**

改正後　医師が診断後※、**直ちに**届け出る

※臨床診断例を含む

2 改正前　ウイルス遺伝子検査を**可能な限り実施**

改正後　ウイルス遺伝子検査を**原則として全例実施**

●検体採取前に保健所へお問い合わせ下さい

3 改正前　**集団発生した場合**、積極的疫学調査を実施

改正後　**1例でも発生した場合**、積極的疫学調査を実施

風しんの届出のために必要な要件

検査診断例：①届出に必要な**臨床症状**の１つ以上を満たし、
かつ、②届出に必要な**病原体診断**のいずれかを満たすもの。

臨床診断例：①届出に必要な**臨床症状**の３つすべてを満たすもの。

①届出に必要な**臨床症状**

ア 全身性の小紅斑や紅色丘疹、 イ 発熱、 ウ リンパ節腫脹

②届出に必要な**病原体診断**

検査方法	検査材料
分離・同定による病原体の検出	咽頭ぬぐい液、血液、髄液、尿
検体から直接のＰＣＲ法による病原体の遺伝子の検出	
抗体の検出（ＩｇＭ抗体の検出、ペア血清での抗体陽転又は抗体価の有意上昇）	血清

厚生労働省

検索　風しん届出基準

風しん　感染症法に基づく医師及び獣医師の届出について▶

麻しん・風しんの検査及び調査にご協力ください。

1 医師により保健所長を経由して都道府県知事へ**直ちに**届出が行われます。

感染症法第12条第１項により定められています。

2 **血液・尿・咽頭ぬぐい液**などの採取にご協力ください。

麻しんや風しんと診断された場合は、患者の皆様に感染症法に基づく検体（血液、尿、咽頭ぬぐい液など）の採取をご協力いただいております。

●検体採取前に保健所へお問い合わせ下さい

3 保健所の職員による感染拡大防止のための**調査へご協力**ください。

麻しん・風しんは、人から人へ感染させる可能性のある病気です。そのため、保健所は、感染の流行を予防するため、感染が疑われる方を確認し、必要な方へ緊急ワクチン接種の推奨や健康観察等を行っています。

厚生労働省